

の肩へ後から摺へて居ます、船が出ると艦にかわると船がガブル。それにつれてうつくと寝ます」

「甚うまい事を仕なはるねんなア」

「八軒家へ着きますと、兄さん甚いお世話に成りました、どう致しまして、兄さん何方へお歸り、へエ私久寶寺町へ歸りますが姉さんは、妾は上町の和泉町へ歸りますねんが同じ方向ですさかい一緒に歸りまへうか、そんならお供致します、歩いて歸るも何で御座りますで車を云ひまへう、あの車屋はん、車屋はん……」

「あんだ大きい聲やなア」

「車屋はん合乗り一臺、ガラ〜〜〜ヘイどうぞ、兄さんお乗り、姉はんお乗り、兄さんから、姉さんから、そんなら二人一緒に乗りまへう、一イニウ三ツ、車屋はん母衣かけとんか、合乗母衣掛頬ぺたひつゝけテケレツツノバ」

「オイ船頭はん、狂人が乗つてるで、投げ上げて仕舞ひ」

「車がガラ〜」

「モシ、まだ今の續きだつか」

「和泉町の松屋町を東へ這入つた處で車が止る、車屋はん大きに御苦勞はん、帶の間から小さい錢を出して車屋に錢を遣ると、一軒露路、表の戸をトン〜とた〜と中から女中さんが出て来て、

オ、御寮さんお歸り遊ばせ、昨日お歸りかと思ふて待つて居りましたのにお歸りや御座りませなんだな、昨日歸る積りやつたが雨で一日遅れたんや、コレお松、此所に御座るお方に船で御厄介になつたんやお禮を云ふとくれ、マア左様で御座りますかいな、主人が船でお世話になつたそうで有難うさんで御座ります、サアどうぞ此方へお這入り、此所まで送つて參りましたらこれでお別れ致します、そんな事を云はんとお這入り遊ばせエエ……」

「モシ、何を仕なはんねん私の袖を引張つて、モシ放しなはれ袖がちぎれるがな、放しなはれ」

「そうですか、そんなら一服さして貰ほう、と上り口へ腰を掛ると、其所は端近、どうぞ此方へ、上へ上ると唐木の江戸火鉢の前へ差向ひに座る、澁いお茶に甘い菓子を出して呉る、女中さんに合圖をすると氣もあれば目も口程に物を云ふ、女中さんが直ぐに表へ飛び出す、暫くすると紺のもじりを着た若い衆が提箱を提げて、毎度大きに、憚りさん、それへ三ツ鉢が出る、横手に菰樽がデンと据へてある、片口を受けて呑口を捻るとお酒がドツ〜と出る、たんぽに入れて銅壺に爛ると爛が出来る、徳利へ入れて脇取へ乗せる、盃洗へ湯を入れて盃を入れて乗せる、三ツ鉢を乗せる、女中が奥へ運ぶチャブン、チリン、トブン」

「モシ、そのチャブン、チリン、トブンと云ふのは何だす」

「女中が容子して歩くので盃洗の湯がチャブンと云ひます、其の拍子に盃が當つてチリン、沈んでト